

令和6年度 取組事例のご紹介

第6回 大井川水系流域治水協議会

令和7年3月21日

大井川水系流域治水プロジェクトにおける島田市の取組

①島田市

●住民の防災意識向上のための取組

- ▶ 想定最大規模降雨、計画規模降雨対象とした洪水浸水想定区域図を基にした洪水ハザードマップの作製・周知
- ▶ 迅速な水防活動を支援するためのスマートフォン等を活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報等の普及活動を実施



●迅速な水防活動・排水活動の取組

- ▶ 地域住民や消防団等が参加する水害リスクの高い箇所の共同点検、水防訓練を実施



●立地適正化計画を踏まえた防災指針周知の取組

- ・将来的な都市づくりを担う中高生を対象に、当市における災害リスクを考慮したまちづくりについて出前講座を実施



●雨水浸透施設設置費補助金交付の取組

- ・令和6年度 雨水浸透ます 40基分 交付

●グリーンインフラの取組

かわまちづくり(蓬萊橋右岸)

(整備のイメージ)

- ・令和6年度 詳細設計
- ・令和7年度 第一期工事
(河川区域外)
- ・令和8年度 第二期工事
(河川区域内)



流域治水プロジェクトの推進（焼津市）

②焼津市



- 雨水貯留浸透施設設置補助事業の運用開始
住宅等の敷地への「**雨水浸透ます**」や「**雨水貯留タンク**」といった雨水貯留浸透施設の設置費用の一部を補助



補助対象	補助額	詳細
雨水浸透ますA型	1基につき 10万円まで 全額補助	焼津市内の住宅等1棟につき 建築面積50㎡未満・・・1基まで対象
雨水浸透ますB型	1基につき 5万円まで 全額補助	建築面積50㎡以上・・・2基まで対象
雨水貯留タンク	1棟につき 3万円まで 全額補助	焼津市内の住宅等1棟につき 貯留容量の合計が200リットル以上の タンク設備 (例：50リットル×4基でもOK)

- 災害リスクを踏まえた立地適正化計画（防災指針）の策定・公表



- 普及啓発活動の実施（水防意識の向上）



- 多様な団体と連携した総合水防訓練の実施



【流域治水プロジェクト】避難の実効性向上に向けて（藤枝市）

1. 藤枝市版マイ・タイムラインは？

一人ひとりが、「**自宅や自宅周辺の水害リスクを理解**」し、避難判断に必要な「**防災情報や避難情報**」、「**避難の方法**」について確認し、「**避難のタイミング**」と「**避難場所**」について確認し、「**わが家のマイ・タイムラインシート**」を作成

2. これまでの取組み

令和4年度 土砂災害版マイ・タイムラインを配布

→土砂災害（特別）警戒区域居住世帯の69.2%が作成

令和5年度 洪水災害版マイ・タイムラインを配布

→市内全世帯の2.7%が作成

出前講座「マイ・タイムラインを作成しよう」を開設

令和6年度 デジタル版マイ・タイムラインの構築

→3月10日より運用開始



③藤枝市

市公式LINEと連携し、LINE上でマイ・タイムラインを作成。更には、GISと連携することで、位置情報に応じて水害リスクが自動入力されるなど、誰でも簡単にマイ・タイムラインの作成が可能！地区、河川などの属性に合わせた情報を配信する「セグメント配信機能」と指定河川洪水予報をもとに配信する「アラート機能」を装備！！

3. 次年度に向けた取組み

- ・紙ベースとデジタルの両輪でマイ・タイムラインの作成率向上
作成率向上＝避難の実効性の更なる向上！
- ・デジタル版マイ・タイムラインを活用した水防災教育の実施
子どもの時から、水害に対する意識づけ！



【牧之原市】流域治水プロジェクト

○ 令和6年度末までの取り組み内容について



◆ 住民の防災意識向上のための取組

- ・ 広報誌やリーフレット等を活用し、出水期前に水害対策の啓発活動を実施。
- ・ 市民及び地域防災力向上を図るため、防災出前講座において風水害対策の講座を実施。
- ・ 「わたしの避難計画」の周知及び防災指導員養成講習会(一般コース)での実施
- ・ 令和2年12月に全戸配布した、洪水ハザードマップ(最大浸水想定)の周知を図り、記載内容等の理解促進を実施。

④ 牧之原市



◆ 社会経済被害の最小化のための取組

- ・ 氾濫発生後、速やかに排水活動ができるよう排水ポンプ車の点検及び操作訓練を実施。



○ 今後に向けた課題

- ・ 市民のハザードマップ認知度が低いため、更なる周知が必要。
- ・ 学生に向けたハザードマップの周知と利活用の促進。
- ・ 風水害対策に関する出前講座の実施数の増加。



【吉田町】雨水調整池の民間設置事例

⑤吉田町

～町土地利用要綱に基づく行政指導と開発事業者の協力による雨水調整池の設置～

吉田町では、「町土地利用要綱」に基づく1,000㎡以上の区画形質の変更を行う場合に、平成元年度から継続して雨水調整池の設置を指導(行政指導)し、開発事業者の協力を得て雨水調整池を設置しています。



これにより、**都市計画法の開発許可基準よりも小さい1,000㎡以上※規模の開発の際にも雨水調整池が民間設置され、内水氾濫の防止に寄与しています。**

※非線引き都市計画区域における開発許可…3,000㎡以上が該当

開発事業の相談時
における行政指導

開発事業者
の協力

雨水調整池の
民間設置

雨水調整池の
民間管理



宅地分譲によって設置された雨水調整池

店舗・事務所開発によって設置された雨水調整池

☆雨水調整池を設置することで

☞ **内水氾濫の防止に寄与**

☆開発者自らが管理(宅地分譲の場合は居住者が管理)することで

☞ **治水を自分事として捉えてもらう**

【その他の状況】

・近年は地下貯留池の設置も可能

☞ **限られた敷地を活用**

・公共施設の設置の際にも雨水調整池を設置

☞ **行政が率先して設置**

・R9年度までに「立地適正化計画」策定予定であり、
その中で「防災指針」を策定し引き続き整備を促す。

川根本町が関係機関と連携して取り組む「大井川の治水対策」

大井川上流部は年間降水量3,000ミリの多雨地帯です。

川根本町は、一級河川大井川の中流域に位置する山間の町です。そして「大井川」の上流域は、年間降水量が約3,000ミリにもなる典型的な多雨地帯であり、たびたび大規模な山地崩壊が発生しています。

崩壊した土砂は大井川によって中下流へと運ばれますが、その多くは河床に堆積します。このため大井川の河床は年々高くなり、洪水・氾濫等の危険性も増し、流域の大きな問題となっています。

国・県・町が連携して次のような治水対策を実施しています

川根本町民も含めた流域住民の安心安全な生活を守るため、関係機関が連携して、大井川の治水対策を進めています。

- ◆国土交通省長島ダムによる洪水調整
 - ◆静岡県による大井川の河床掘削・護岸整備
 - ◆川根本町による洪水・土砂災害ハザードマップの作製・配布
 - ◆地域住民及び小中学校への水災害教育の実施・啓発
- これらの施策が、流域住民の毎日の暮らしを支えています。



- ①大井川の河床を定期的に掘削して、堆積土砂を除去することで、安定した河床を保ち、洪水・氾濫を未然に防ぎます。
- ②洪水・土砂災害ハザードマップを全世帯に配布しています。町民が、自ら、常日頃から災害に備えるため重要なツールです。
- ③町内義務教育学校に担当職員が出向いて水災害に関する防災教室を開いています。子どもの頃から防災意識を高める教育を進めます。



島田土木事務所では「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」として、大井川流域治水プロジェクトに位置付けられた大井川水系中流七曲りブロック整備計画に基づく大井川本川の河道掘削や護岸整備、大井川水系下流ブロック整備計画に基づく伊太谷川の護岸整備、その他河川の河道掘削等を国土強靱化5か年加速化対策などにより実施している。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

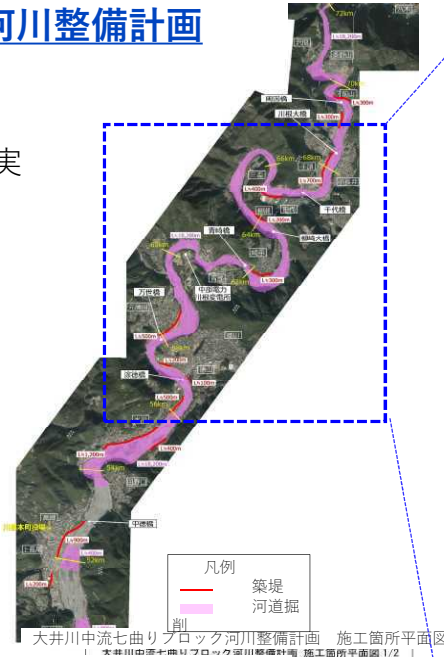
1 大井川水系中流七曲りブロック河川整備計画

令和6年度

- ・河道掘削
- ・計画高水位（HWL）までの護岸整備を実施

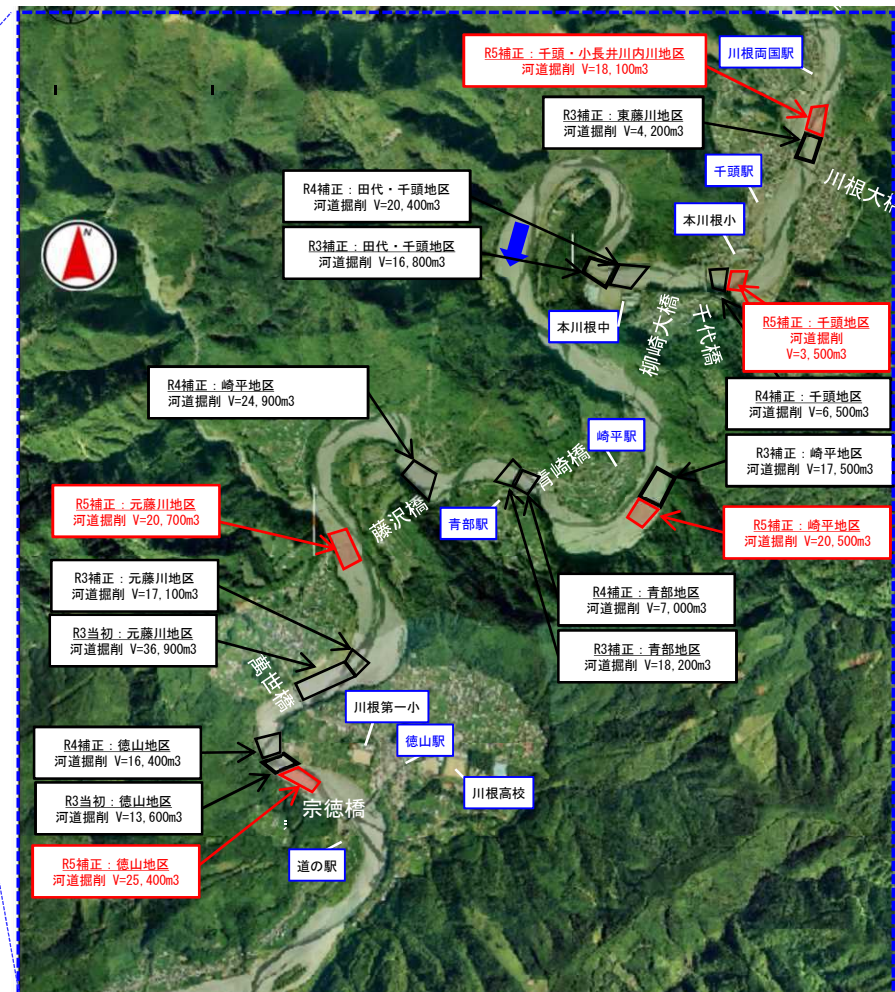
大井川水系 県管理河川 R6実施箇所

河川名	工区名	事業概要
大井川	徳山	河道掘削工
大井川	青部	河道掘削工
大井川	崎平	河道掘削工
大井川	千頭	河道掘削工
大井川	身成	護岸工
小長井河内川		河道掘削工
中津川		河道掘削工
白光川		河道掘削工
笹間川		河道掘削工
大代川		河道掘削工
相賀谷川		河道掘削工



2 大井川水系下流ブロック河川整備計画

R4・R5は、取水堰を管理する大井川土地改良区との協議を実施。大津谷川合流点部からの工事着手に向けて関係機関と協議を進めている。

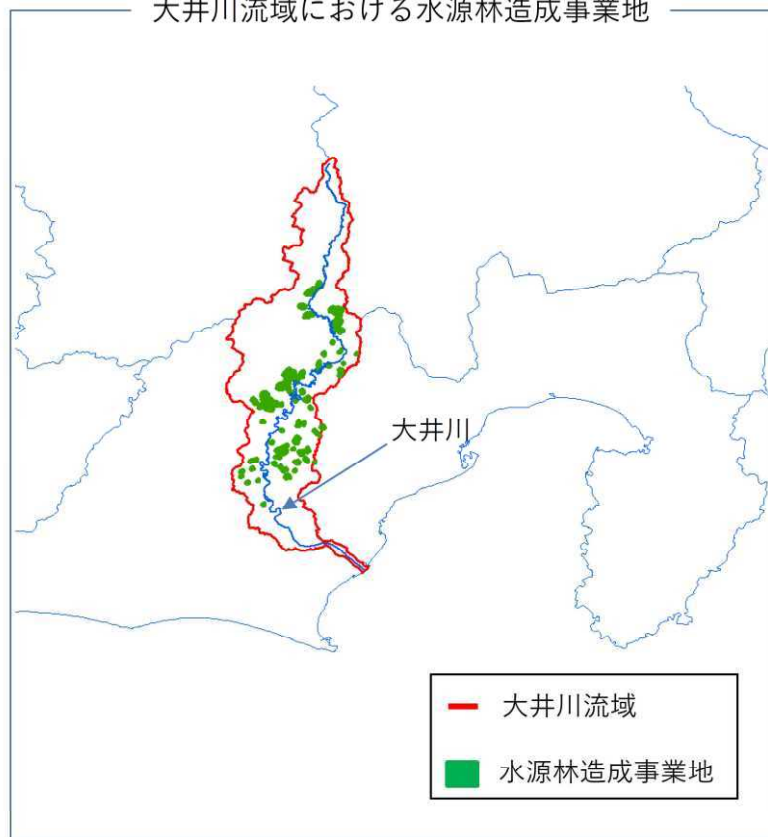


令和6年度は、国土強靱化5か年加速化対策事業により、大井川本川における河道掘削（V＝約82,700m³）などの工事を実施。

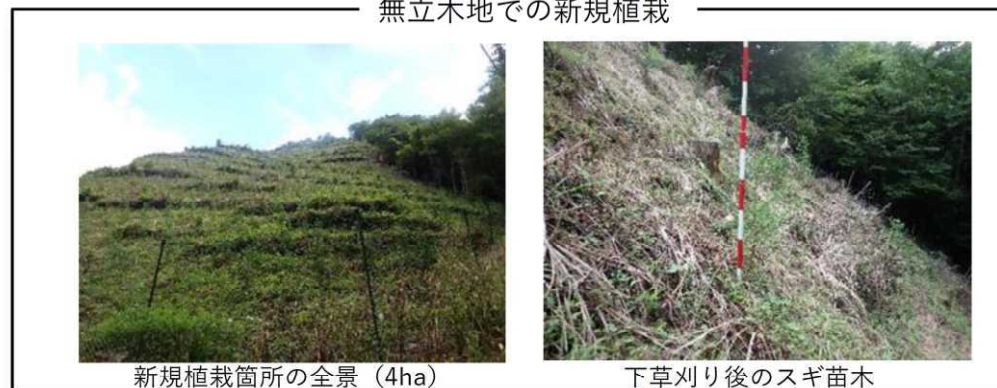
■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

- ・水源林造成事業は、ダムの上流部等に位置する奥地水源地域の民有保安林において、森林整備センターが費用負担者となって、植栽から成林に至るまでの保育活動を計画的に実施することにより、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図る事業です。
- ・大井川流域における水源林造成事業地は、約100箇所（造林地面積 約2,600ha(契約面積約3,500ha)）あり、新植、下刈り、除伐・間伐等の森林整備を計画的に実施しています。 ➡ 令和6年度実績 除間伐等 58ha実施
- ・一部のダム湖上流部において、増水時の水位上昇によると見られる溪岸森林の崩落により、川岸から山頂部に向かって森林が崩落している箇所があります。平時に流量低下を図る（事前放流）などの対策を望みます。

大井川流域における水源林造成事業地



無立木地での新規植栽



山腹崩壊が起きている現場





【静岡地方気象台】流域治水への取組

- 防災気象情報が市町の避難情報の発令や住民の避難行動の判断に活かされるよう支援を行っている。
- 令和6年5月27日から線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報について、地方単位から府県単位に対象地域を絞り込んだ。今後も、引き続き対象地域の絞り込みや発表時間の前倒しなど予測精度の向上に努める。

平時

<関係機関との連携強化の取り組み>

- ✓気象台長の市町の首長との「顔の見える関係」を構築・深化
- ✓防災気象情報の利活用のための実践的な研修等の実施



気象防災ワークショップ（自治体職員対象）



気象庁大雨ワークショップ（学校対象）

- ✓「あなたの町の予報官」を編成して支援・連携



※地域防災計画、ハザードマップ、地域特性、災害履歴と災害時の気象状況及び地震・火山活動の状況等について自治体と共有

緊急時

<適時的確で迅速な対応>

- ✓線状降水帯情報の対象地域絞り込み



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけの情報が、これまでは地方単位で呼びかけていたものを、府県単位で呼びかけることになった。

- ✓ホットライン等により予報官の危機感を確実に伝達

- ✓災害対応支援のため「気象庁防災対応支援チーム（JETT）」を派遣

JETT派遣（県庁）
台風第10号に関する説明会
今後の天候や警報・注意報の見通しを解説



対策メニュー

短期

中・長期

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

●被害軽減対策

- ・気象に関する予報精度向上
（予報期間長期化・地域の絞り込み・的中率の向上）
- ・関係機関との連携強化
（あなたの町の予報官・各種協議会等）

●住民の主体的な避難行動を促す取組

- ・ハザードマップや防災気象情報（キキクル等）の利活用を促進、住民の水害リスクに対する理解・促進の取り組み（各種防災イベント・出前講座・気象庁ワークショップ）

静岡森林管理署における国有林野内直轄治山事業の取り組み

- 川根本町の国有林内において、多くの崩壊地が存在していることから、崩壊地の復旧と併せて森林全体の健全な成長を図るため保安林整備を含む治山事業を実施している。
- 令和6年度については、山腹工0.14ha(簡易法枠工)を施工している。

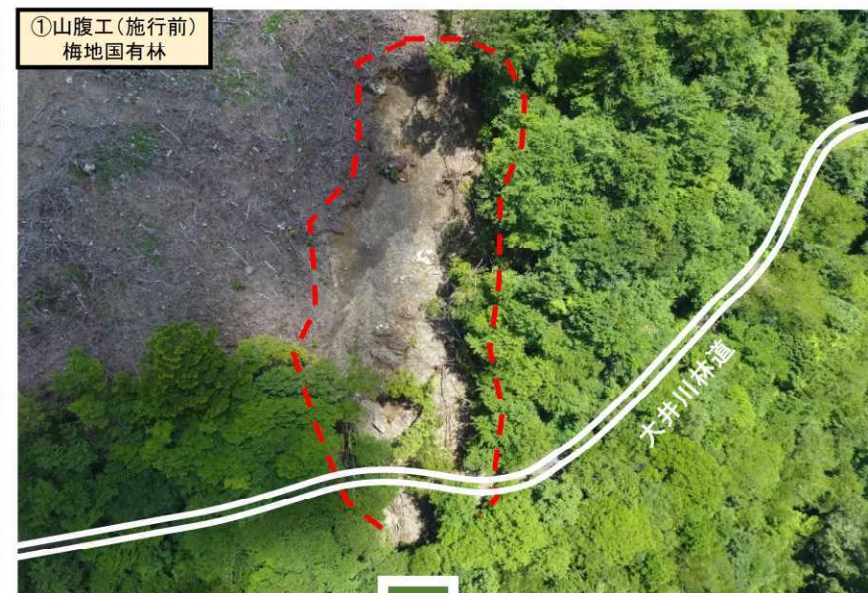


千頭山国有林の遠望



大井川林道

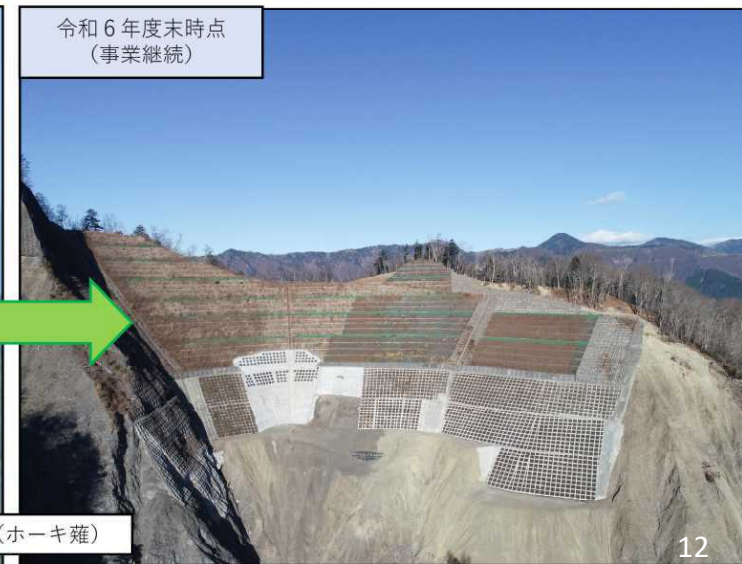
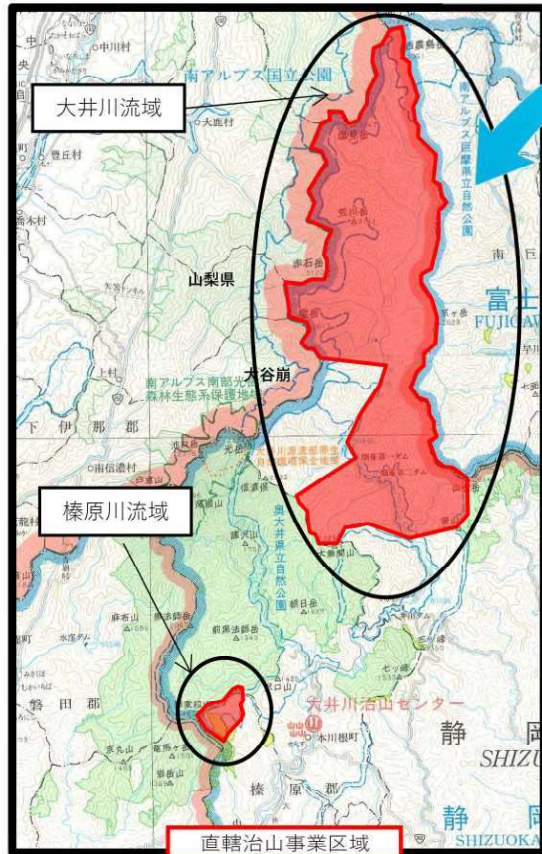
林道被害状況(崩落土砂)



大井川治山センターにおける治山事業の実施

⑪大井川治山センター

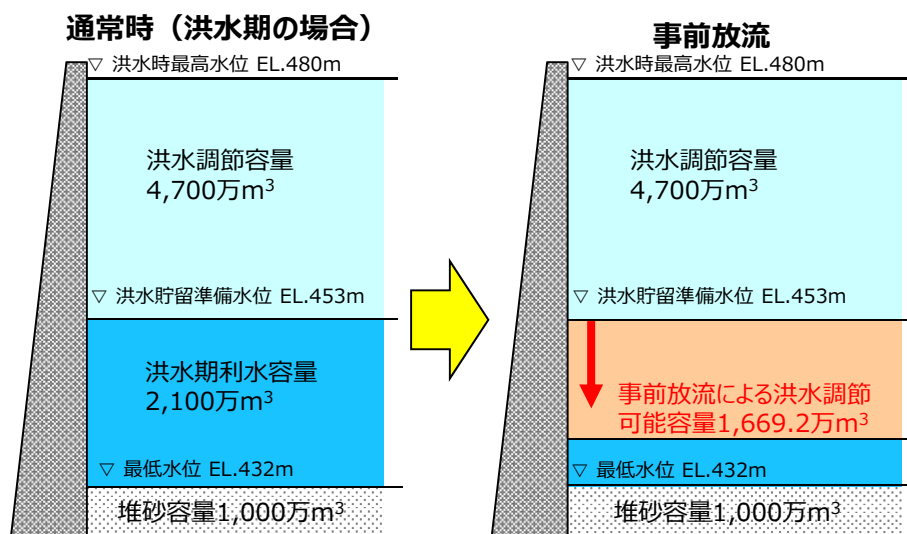
- ・大井川上流部の井川地区及び榛原川地区において、多くの崩壊地が存在していることから、山腹崩壊地の復旧及び崩壊地から生産された土砂の流出防止を図るため、計画的に治山事業の取り組みを進めている
- ・令和6年度は崩壊地の復旧として、**溪間工2基**、**山腹工6箇所**を実施
(施工面積：1.8ha 主な工種：簡易法砕工、土留工等)



事前放流の取り組み

- 大井川水系では令和2年5月に治水協定を締結し、大井川水系の計15ダムで最大約1億520万 m^3 の洪水調節容量が加わるなど事前放流の実施方針が定められた。
- 長島ダムでは洪水調節可能容量が最大で6,369.2万 m^3 となるなど、洪水調節機能の強化が図られている。
- 令和6年8月台風10号による出水に伴い、長島・奥泉・井川・畑薙第二・畑薙第一ダムのダム群において基準降雨量を上回る予測がされたが、事前に必要な空き容量を確保していたため事前放流の実施は行わなかった。

＜事前放流による洪水調節機能の強化＞ (長島ダムの容量配分図イメージ)

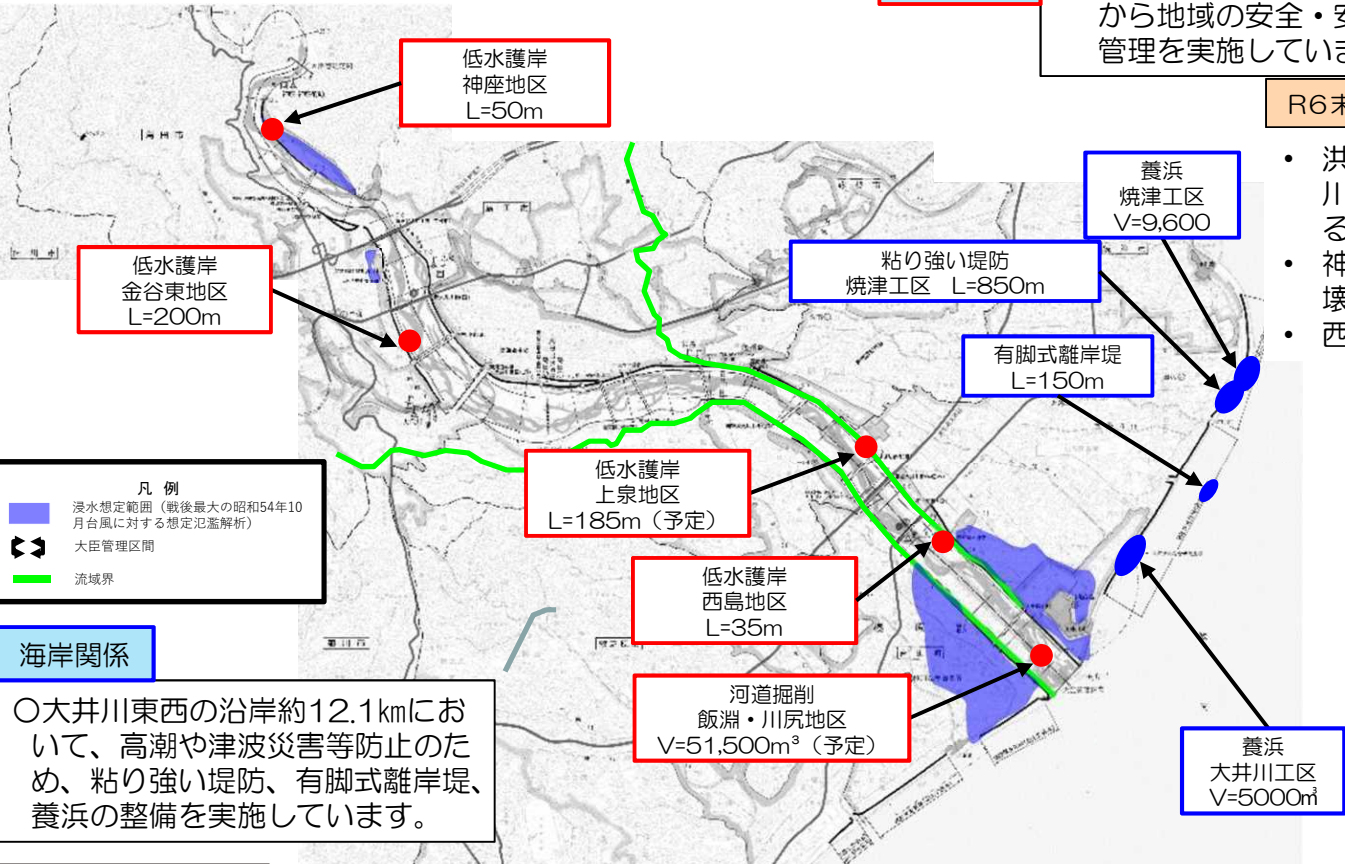


＜事前放流実施の流れ（長島ダム）＞

- ① 気象台が大雨や台風に関する情報を発表
- ② 河川管理者がダム管理者へ①の情報を提供し、事前放流を実施する態勢に入るよう伝える（ダム管理者は予測降雨量を注視）
- ③ 予測降雨量が基準降雨量（358mm/48時間）を上回り、ダム管理者が事前放流の実施を決定（ダムの流入総量を予測し貯水位低下量を算出）
- ④ 関係機関へ通知
- ⑤ 事前放流の開始

大井川・駿河海岸 令和6年度整備箇所

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



海岸関係

○大井川東西の沿岸約12.1kmにおいて、高潮や津波災害等防止のため、粘り強い堤防、有脚式離岸堤、養浜の整備を実施しています。

R6末時点の実施内容

- 高潮や侵食対策として、焼津・大井川工区で有脚式離岸堤の整備および養浜を実施。
- L1津波を超える津波に対して、減災機能を発揮させるよう、焼津工区などで粘り強い構造の堤防を整備。



表 堤防の整備状況 (令和6年度末時点)

	堤防必要区間 延長(km)	計画断面堤防区間		暫定断面堤防区間	
		延長(km)	率(%)	延長(km)	率(%)
整備計画策定時	38.6	35.8	92.7	2.8	7.3
現況		37.3	96.7	1.3	3.3

河川関係

○直轄管理区間 大井川(24.8km)において、洪水氾濫から地域の安全・安心を確保するため、河川改修・維持管理を実施しています。

R6末時点の実施内容

- 洪水を安全に流下させるために、飯淵地区川尻地区において、洪水を安全に流下させるため河道掘削を実施。
- 神座地区、上泉地区において侵食による決壊をふせぐために低水護岸の整備を実施。
- 西島地区において、護岸の修繕を実施。



令和7年度以降の取組

国直轄区間でS54.10月洪水規模(観測史上最大流量)の洪水を安全に流下させる為に、堤防整備・河道掘削を引き続き実施します。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

□ 自治体の水防訓練に参加

- 島田市及び焼津市の水防訓練に静岡河川事務所から災害対策車両（排水ポンプ車、照明車）を派遣し、TEC-FORCEの取組について説明を行った。



水防訓練での災害対策車両の説明状況（左：島田市、右：焼津市）

□ 災害対策車両の操作訓練を実施

- 大井川中島地区河川防災ステーションを活用し、自治体職員向けに災害対策用機械操作訓練を実施。排水ポンプ車及び照明車の操作を訓練し、いざという時に備え操作方法の習得に取り組んだ。



災害対策車両操作訓練の状況

令和7年度以降の取組

引き続き、水防訓練へ参加し、災害対策車両についても積極的に紹介していくとともに、操作訓練により操作の習得にも取り組む。

□ 水防災学生サポーター制度の活用

- 島田商業高校において、「水災害教育学生サポーター制度」を活用した授業を行った。
- 水防災教育授業の更なる促進及び学校と地域が協働した継続的な学校水防災教育を目的に、令和3年9月に創設
- 学校水防災教育を通じて、子供たちの水防災意識の形成と主体的に避難行動をとれる人間を育成し、地域全体で水防災意識をもつことを目指す



学生による授業状況



マイタイムライン作成の様子

【受講した生徒の感想】

- 災害時にどのような対応をしたらいいのか、災害が起きる前に何をしておくべきなのかを改めて知ることができた。
- 先生（静大の学生）が実際に災害に備え準備したもの（防災ボトル等）を見て、自分も何を準備すれば良いかわかりました。
- マイタイムラインを作ってみてその行動は本当にそのタイミングで大丈夫か？などを考えることが大切だと思ったので他の人達にも、マイタイムラインを作してほしいことを伝えたい。

令和7年度以降の取組

引き続き、水災害学生サポーター制度を活用した授業の普及により、地域の水防災意識の向上を図る。